



「新自由主義的統治を再考する：階級闘争の復権のために」

問題提起者：佐々木 隆治さん（立教大学経済学部准教授）

日時：2020年9月13日（日）13:30～16:30

会場：文京区湯島地域活動センター

参加者：16名（オンライン参加者3名を含む）

問題提起要旨：新自由主義の席卷により、「近代化」「自由」「改革」といった言葉は意味を奪い取られ、批判精神は衰退。交換関係の外部にあるものまで市場に投げ込まれ、市場原理が社会統治の正当性に据えられた。資本の収奪による環境破壊は物質代謝の攪乱をもたらし、疫病蔓延に国家が手をこまねく様は目を覆うばかりだ。そうした惨状を打開するには、新自由主義の概念基盤の外に立たねばならず、散見するような国家権力増大の批判や、「経済を回す」という言辞による対抗だけでは、真の変革はなしえない。市場の力を覆すために有効なのは、今なお階級闘争である。マルクスの生産関係論を新たに読み解くことで、階級闘争のイメージをアップデートし、現状を克服するための議論の契機としたい。